

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

令和3年5月27日（木）

3. 調査の対象

泉佐野市立北中小学校 第6学年、全児童

実施児童数（ 69 人）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、小学校は国語及び算数、中学校は国語及び数学。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、知識・技能に関する内容と、それらを活用する力や構想を立てて実践し評価・改善する力などに関する内容とする。

ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

(3) 学校の取組に関する調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

- ・分布グラフを見ると全国や大阪府と比べて、正答数が7問以下の児童が多い。その一方で、正答数が11問以上の児童も多く、二分化されている。
- ・特に【書くこと】について、全国の平均正答率が60.7に対し、本校は52.9（-7.8ポイントと）、大幅に下回っており、課題が顕著に見られる。

平均正答率（本校 61 / 泉佐野市 60 / 大阪府 63 / 全国 64.7）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問
<p>1二 津田梅子についての【スピーチメモ】の練習で、〈資料②〉と〈資料③〉を使った理由の説明として適切なものを選択する。(66.7/74.9) ○部分を読みとり、選択することが苦手であると考えられる。 また、言葉の意味が分からず、最も簡単な言葉で記されている2を選択した可能性がある。</p> <p>2一 面ファスナーに関する【資料】の文章が、何について、どのように書かれているのか説明として適切なものを選択する。(72.5/77.6) ○前問同様、知っている語彙が少なく、「経過」「長所」「短所」の意味が分からずに選択した可能性がある。</p> <p>2三 面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く。(39.1/34.4) ○市内統一問題後、どのように書けばよいか、ポイントを考える等の時間を設定した。そのような学習活動の結果、高得点の児童らが記述できたと考えられる。</p>	<p>3二 丸山さんの【文章の下書き】の - - - - 部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す。(40.6/56.6) ○自分の意見を書くことは、これまでの経験から抵抗感なくできるが、二つの情報を組み合わせる・ある条件を使って書くことは難しい。 また、要点が明確に分からず、内容理解まで達していないために、無回答が多かったと考えられる。</p> <p>3三 丸山さんの【文章の下書き】の中の——部分イで、～線部「残されています」の主語として適切なものを選択する。(55.1/67.0) ○主語・修飾語などの文法に触れる機会が少ないためか、知識の定着まで至らず、見当違いの答えを選択している。 また、後半の問題であったので時間が足りずに無回答であった可能性がある。時間が足りない要因としては、記述問題において、字数だけ足す・問題に書き込むといった技法を使わず、書いてから字数を調整している・丁寧に書いたり消したりする等して時間をロスしていると考えられる。</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか	49.2	58.4	◇	9.2
国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか	71.0	63.8	◇	7.2
国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えを持ったり、自分の考えを広げたりしていますか	79.7	74.3	◇	5.4

○文章や問題の要点が明確に分からず、内容理解まで達していないために、記述できなかった。さまざまな文章に触れる機会を増やし、必要箇所を捉える技法や手立てを身につける必要がある。

○語彙力が乏しく、文章や問題の言葉の意味が分からずに誤った選択や記述をしている。言葉の意味を調べるだけでなく、言葉を活用する機会をつくり、定着させる必要がある。

○自分の意見を書くことはできるが、複数の情報を組み合わせて、記述することが難しい児童が多くいる。短文を読んで書く、まとめや振り返り等キーワードを使って書くといった活動を、朝の学習プリント等を通して行う必要がある。

○後半の問題で、時間が足りなかったのか無答率が高かった。記述問題において、生真面目に問題を読み書きする等して、時間をロスした可能性がある。効果的な技法や手段を活用し、記述する練習をする必要がある。

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

- ・分布図を見ると概ね右肩あがりのグラフであった。しかし、全問正解した児童数は 4.3%と少なく、全国と比べ7問以下の児童もやや多い。これまで分布がふた山になりがちな傾向であったことを加味すれば、改善ともいえる。
- ・「変化と関係」以外のすべての領域で全国値より下回った。特にB図形の領域においては、全国の正答率 57.9%であったのに対し、本校では 50.7 (-7.2 ポイント) と大幅に下回っていた。この事からも「図形」に関する課題が見受けられる。
- ・記述問題の理解、解答にも課題が見られる。

平均正答率（本校 67 / 泉佐野市 68 / 大阪府 70 / 全国 70.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率 / 全国正答率）

算数	特徴がみられた設問
1(3)「㊦と㊧の二つの速さを求める式の意味について正しいものを選ぶ。」(63.8/55.8) 【全国比8.0】 4(1)「余りのある除法の商と余りを基に、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を書く」(87.0/83.0)【4.0】 2(1)「直角三角形の面積を求める式と答えを書く」(46.4/55.1)【-8.7】公式忘れが目立つ 積み重ね、既習事項の定着の取組みが必要 2(2)「直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ」(62.3/72.5)【-10.2】 選択式のため無答は無いものの誤答が目立つ。 根拠を見出さず、見た目で判断している。	3(4)「帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く」(46.4/52.0)【-5.6】グラフを読み取り、相手の考えを理解するなど活用が不十分である。 4(2)「8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める式と答えを書く」(49.3/55.5)【-6.2】問題文の読み取りが不十分で、思い込みで立式する傾向が見られる。 4(3)「30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く」(39.1/51.5)【-12.4】 無答率が全国比(+1.3)に対して正答率が大変低い。ポイントを押さえた説明の弱さが見受けられる。

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
(69) 調査時間は十分でしたか。	73.9	81.7	◇	7.8
(60) 書く問題に最後まで書こうと努力した。	87.0	79.9	◇	7.1
(57)算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	47.8	49.4		
(52)算数の勉強が好きですか。 「当てはまる」と回答	33.3	40.6	◇	7.2
(53)算数の勉強は大切だと思いますか。 「当てはまる」と回答	68.1	76.2	◇	8.1
(54)算数の授業の内容はよくわかりますか。 「当てはまる」と回答	34.8	51.6	○	18.8
(55)社会に出たときに役立つと思いますか。 「当てはまる」と回答	66.7	72.8	◇	6.1
(59)解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。「当てはまる」と回答	55.1	66.1	○	10.9

○(60)から、問題に対してあきらめず、様々な方法を考え、最後まで努力しようとしている態度が見受けられる。

- 記述問題に対して無答率が上がる。時間が足りていないと感じている児童も多い。
- 質問紙において「当てはまる」と回答する児童が少なく、「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」を合わせると全国平均となる。自信の無さが見受けられる。
- ノート評価について見直しを行う必要がある。
- 「図形」に関して、現在も行っている具体物を見せる授業と今後 ICT を活用した授業を展開する。
- 論理的な思考、ポイントを押さえた解答ができるよう学習を進める。(発問、練習)
- 自身の解答で終わらず、他者がどのように考えたのか理解でいく力を付ける。
- 様々なグラフの読み取り(教科横断)を行い、慣れる必要がある。
- 学習の意味付けも丁寧に行う。

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校<本校回答率/全国回答率>
【自分自身について】	<p>○朝食を毎日食べている割合は、全国を下回っている。</p> <p>○普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をする割合は、全国を大きく上回っている。（2時間以上の児童）</p> <p>○難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している割合は、全国を上回っている。</p> <p>○自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる割合は、全国を下回っている。</p> <p>○自分と違う意見について考えるのは楽しいと思えますか、全国を上回っている。</p>	<p>○朝食を毎日食べていますか <87/94.9></p> <p>○普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか →2時間以上と答えた児童の割合 <70.9./49.4></p> <p>○難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか <81.2/70.9></p> <p>○自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか <63.8/70.3></p> <p>○自分と違う意見について考えるのは楽しいと思えますか <81.1/70.1></p>
【家庭生活の様子】	<p>○あなたの家には、およそどれくらい本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）は、25冊以下が全国を上回っている。</p> <p>○新聞を読んでいますか、全国を下回っている。</p> <p>○今住んでいる地域の行事に参加していますか、全国を下回っている。</p> <p>○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか、全国を上回っている。</p>	<p>○あなたの家には、およそどれくらい本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く） →0～10と11～25冊あると答えた家庭の数 <40.6/30></p> <p>○新聞を読んでいますか <7.2/14.8></p> <p>○今住んでいる地域の行事に参加していますか <46.3/58.1></p> <p>○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか <57.9/52.4></p>

<p>【学校での学習の様子】</p>	<p>○あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用しているかは、全国を下回っている。</p> <p>○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているかは、全国を下回っている。</p> <p>○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているかは、全国を上回っている。</p> <p>○5年生までに受けた英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができているかは、全国を上回っている。</p> <p>○これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど）は、全国を上回っている。</p>	<p>○あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか</p> <p style="text-align: right;"><15.9/40.1></p> <p>○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか</p> <p style="text-align: right;"><30.4/39></p> <p>○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか</p> <p style="text-align: right;"><85.5/78.8></p> <p>○5年生までに受けた英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか</p> <p style="text-align: right;"><81.2/74.6></p> <p>○これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど）</p> <p style="text-align: right;"><50.7/44.4></p>
<p>【家庭学習の様子】</p>	<p>○新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じたかは、全国を上回っている。</p> <p>○新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができたかは、全国を上回っている。</p>	<p>○新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか</p> <p style="text-align: right;"><60.8/55.2></p> <p>○新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか</p> <p style="text-align: right;"><72.5/64.6></p>

本校の取組

◎これまでの取組

【自ら考え共に学び合う体験的な活動（授業）を通して、コミュニケーション豊かにつながる子どもの育成をめざすための取組み】

（１）言語活動・コミュニケーション活動の充実

- ① 全ての授業で「聴く」「表現する」活動を工夫し、相手の思いや考えを能動的に理解しようとする、積極的に自分の思いや考えをわかりやすく伝えようとする態度を育む。
 - ・読み聴かせ活動 ・聴き方「あいうえお」 ・ペア学習及びグループワーク
 - ・話し方「かきくけこ」 ・伝わりやすい書き方ワーク ・プレゼンテーション 等
- ② 人と関わる楽しさを感じることや、他者との出会いを積極的に取り入れる。
 - ・交流活動 ・人と関わる体験的な学び ・まなびんぐスクール 等

（２）体験的な学びを通して、信頼感や安心感であふれる集団づくり

- ① 目標に向かって集団活動を企画・運営する。
 - ・共有できるルールづくり ・チームとしての活動づくり 等
- ② 自分を振り返る機会を習慣づける。
 - ・振り返りジャーナルや日記 等
- ③ 本音を語り合え、心情を共有する関係づくり。
 - ・相互に伝え合い聴き合うオープンクエスチョンワーク 等
- ④ 人間関係の実態把握を進める。
 - ・集団生活のアンケート調査と内面把握の個別の相談活動

（３）自力解決の力を育てる生活や授業での学び

- ① 自己選択と自己決定を積み重ねるしかけを組み込む。
- ② 基礎基本の習熟を図ると共に、活用力を高める。
- ③ トラブルの解決のために、全学年がセカンドステップに取り組む。

【学習】

- （１）学力向上の一環として、基礎・基本の習熟と活用能力を高めることを目標に、習熟度別指導を中心に取り組む。
- （２）朝学習を充実させ、漢字や計算の力をつける。
- （３）研究授業や校内研修を計画的に行い、積極的な意見交換により個々の授業力向上をめざす。
- （４）教職員間の学び合いシステムを活用し、授業力の向上を図る。

◎これからの取組

【学習】

- （１）語彙力を高めるとともに、文章理解を深められるよう、研究をすすめる。
- （２）さまざまな問題に挑戦できる課題（朝学習プリント等）に触れ、初見の問題に慣れるようにする。
- （３）成果として見られた漢字のとりくみについては、継続して行う。
- （４）図書室や移動図書館を活用する機会を検討し、読書活動を充実させる。
- （５）少人数・習熟度別学習を効果的に利用し、学力向上へとつなげていく。
- （６）パソコンやICT機器を効果的に活用した授業を充実させていく。
- （７）自分の考えを主張・説明する、友だちの考えを理解し、伝達する等、個人に応じたとりくみを行うようにする。
- （８）授業力向上のため、教職員間の学び合いシステムの活動を積極的にすすめていく。
- （９）三中計算スタンダードの活用と発展に努める。

【生活】

- (1) 朝食については、前年度までに比べると食べている児童が増えている。しかし、全国の数値に比べると低い。引き続き、朝食の重要性を啓発していく。
- (2) 学校全体で、毎月20日に『はよねるデー』というとりくみを行っている。このとりくみを継続し、早寝早起きの習慣を定着させる。
- (3) ゲームやスマホの利用時間の現状や依存性の恐ろしさについて、保護者へ啓発し続ける。
- (4) セカンドステップのとりくみを続け、感情のコントロールを身につけさせる。
- (5) 話し合い活動を取り入れ、学びの中での集団づくりを引き続き行っていく。
- (6) ふわふわ言葉のとりくみを続け、あたたかく落ち着いた学習環境を構築する。
- (7) 北中ばっちりウィークを活用し、家庭での学習に対する意識向上に努める。
- (8) SC、SSWとの連携を深め、活用することで、子どもたちや保護者の心のケアに努める。
- (9) 三中校区で実践している立腰を意識し、学習に前向きな姿勢をつくる。